# 心臟血管外科

#### (スタッフ)

部長 : 山田 卓史 副部長 : 久田 洋一

:尾立 朋大

2021年心臓血管外科のスタッフは山田卓史部長、 久田洋一副部長、尾立朋大副部長の3人体制で診療 を行いました。自治医科大学出身の中野浩二医師が 時々手術の研修に来てくれていました。また時期を ずらして馬場晶子先生、甲斐大喜先生、舩木康介先 生が研修に来てくれて、にぎやかな時期を過ごすこ とができました。手術時は臨床工学技士の佐藤大輔 チーフをはじめ、佐田・佐藤(史)・三浦・山内・恵 良・浪野らが人工心肺等の操作を行って手術をサポートしてくれています。

### (診療実績)

年間入院患者数は COVID-19 の影響もあって過去最低で 1,890 人と初めて 2,000 人を切りましたが、平均単価は 167,205.25 円と過去最高でした。外来患者数は変化なく、124.4 人/月で平均単価は 44,081.2 円でした。紹介率は 97.62%と昨年より微増し、逆紹介率は 194.44%でした。手術症例総数は 315 例であり、過去5年の手術数の推移は図に示しました。

トータル3か月間病棟制限がかかったため、心臓胸部大血管手術症例数は通年より20%減で昨年と同程度でした。それでも透析シャント症例は通年と同等かより多い症例数でした。

虚血性心疾患に対する冠動脈バイパス術 (14 例): 糖尿病合併・腎不全にて透析中・超高齢者など非常に重症例を中心に増加傾向がみられます。単独 CABG 症例は全例心拍動下に行っており、心筋梗塞後合併症に対する手術も併施しました。

弁膜症に対する開心術:のべ20 例で、内訳は大動脈弁疾患13 例、僧帽弁疾患7例(内弁形成術6例)で2 弁以上を扱う連合弁膜症が7 例ありました。また、必要に応じて三尖弁輪形成術や心房細動に対する MAZE 手術・左心耳切除術を併施しています。

<u>その他の心臓手術</u>:巨大心臓腫瘍(粘液腫)1例、動脈管開存症手術は5例で、手術当時全国最小の284gの症例も経験しました。

血管疾患: 真性胸部大動脈瘤3例、大動脈解離8例で腹部大動脈手術11例、重症虚血肢などに対する末梢動脈病変(PAD)の手術症例は13例に行いました。下肢静脈瘤(5例)に対しては高周波(ラジオ波)による下肢静脈瘤血管内焼灼治療を行っており、良好な結果を得ています。

その他: 腎不全症例に対する内シャント増設やシャント

不全に対する手術は非常に多く、234 例の手術と 138 例 の血管内治療を行いました。

#### 【心臓大血管リハビリ】

2007年より当院は心臓大血管リハビリの施設基準 I を取得しており、ゴール・目標値を設定して系統 的にリハビリを行い、ある程度のエンドポイントを 設定して退院を決定していますが、マンパワー不足 は否めず、病診連携を通じてリハビリ可能病院へ転 院している状況です。

## (今後の方向性)

緊急症例でない限り、可能であれば自己血貯血を 行って手術を行っています。

冠動脈バイパス術症例はここにきて透析症例や糖尿病などの重症合併症例や何度も再狭窄を起こした症例が手術となることが多くなりましたが、OPCABの確立にて低侵襲で安全な手術がスタンダードにできるようになりました。弁膜症に関しては、特に自己弁温存の弁形成術が今後も増えていくと思われます。また、新しい人工弁も次々と出てきており、MICS(低侵襲手術)を併施していく予定です。ロボット手術や Hybrid 手術室が新設されると、TAVR(経カテーテル大動脈弁置換術)も含めてさらに発展していく可能性があります。

最近は季節を問わず大動脈解離症例が増加している印象で、脳分離体外循環を用いた重症症例の緊急 手術も増加しました。腹部大動脈瘤はステント留置 治療の認定施設となっていましたが、最近は再び開 腹による人工血管置換術が主体となりました。

静脈瘤もラジオ波の保険診療が認められ、良好な 結果を得ています。

術後の病診連携では、心臓大血管リハビリについて可能であれば地域連携パスを作成して、退院・転院後も回復期病院で系統的なリハビリ継続を行うことでさらに術後の合併症を軽減し、患者の安心と自信を向上させていきたいと考えています。

(文責:山田卓史)

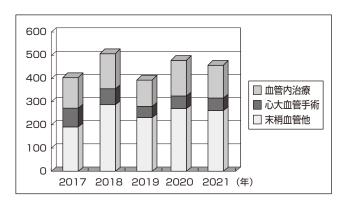


図 心臓血管外科手術症例数(単位:例)